

第32回中国ミニバスケットボール交歓大会(広島市)に出場報告

2013年 1月 23日

岬恩田ミニバススポーツ少年団(男子)

コーチ 月出 清

2013年1月4日～6日で開催された第32回中国ミニバスケットボール交歓大会(広島市)の報告をします。結果は、1勝1敗で予選リーグ敗退となり、二日目は交歓試合となりました。

チームを指導し、8年ぶり2回目の出場となり、前回出場した大会では1勝1敗で予選リーグ敗退であり、今回は、何としても予選リーグ突破を目指し、日々練習をしてきました。しかし、各県の代表として出場したチームは、やはり強豪揃いで練習風景から圧倒されました。また、選手達も、グリーンアリーナの大きさに圧倒されていたので、開会式終了後、宿舎に帰り、夕食時には和気藹々とリラックスするように努めました。

第1戦は、島根県第2代表の法吉で、県では常に1、2位を争っているチームです。個々のオフェンス・ディフェンス能力は高く、また、スピードもあるため、得意の2-1-2ハーフゾーンディフェンスで対応しました。自チームは、試合前のリラックス状態から試合開始と同時に一転して緊張し、ドリブルミス、パスミス等が連発し、地に足が着いていない状態で思うようなプレーが出来ませんでした。また、簡単なリング下のシュートも落とし、思うように点が取れず、逆に法吉の外からのシュートが次々と決まり、前半を2-20で終了しました。後半に入り、3Qまではペースが掴めず得点は4点でしたが、やっと緊張感もほぐれ、4Q残り3分で16点取りました。結果は、20-53で大敗しました。

第2戦は、広島県第1代表の白岳で、緊張感がほぐれ、前半は15-16で負けていましたが、後半に入り、プレスディフェンスから速攻が決まり、点差が広がり、ベンチの控えの選手を総て使うことが出来た試合でした。結果は、43-35で勝利しました。

二日目の交歓試合は、勝敗にこだわらず、中国大会以上の出場を目標に日々頑張ってきた特に控え選手をコートでプレーさせることが出来ました。結果は負けましたが、子供達には、小学校生活での貴重な経験となり、今後健やかに成長していく過程で役に立つと思いました。

最後に、団旗にある「夢あるもの実行あり。実行するもの感動あり。」を合言葉に、目標に向かって子供達・保護者・指導者が一つに纏まり、子供達の頑張りでもらった感動と今回の反省を糧とし、ミニバスケットボールが目指す「友情」・「ほほえみ」・「フェアプレー」を基本に、今後の指導へ活かして行きます。中国大会へ向け、応援・ご支援を頂きました皆様に感謝とお礼を申し上げます。

